

「ハートのボート。」  
vol.05

## 宮永琢生「制作」

みなさん、ごぶさたしております。TwitterにもFacebookにも飽きちゃって、みなさんに近況をお知らせできておりませんが、大丈夫。ぼくはげんきです。さて、んなわけで「ままごと」は、いわきに行かせていただいたり、名古屋に行かせていただいたり、札幌に行かせていただいたり、仙台に行かせていただいたり、と、全国各地を飛び回っております。いわきでは1日4ステ(スタップが)とゆーハードなスケジュールを各セクションの天才的なスタッフワークによりなんとか切り抜け、名古屋では「劇天」とゆー新たな称号を得て、札幌では豪雪の中で柴が我々に雪を投げつけて「ヒャド!」(ドラ○ンクエスト参照)と言いつて、仙台では毎日牛タン食べてました。あーちよーたのしかった!



長谷川健一「423」

京都が生んだ日本最後の歌うたい長谷川健一氏による最新音源。プロデュースは木下ジム・オルーク氏。ゲストミュージシャンも、石橋英子氏[F]、山本達久氏[D]、波多野敬子氏[V]と、最強。

いま小豆島へ向かうフェリーから海を眺めながらのアルバムを聴いています。1曲目の「あなたの街」が流れた瞬間から、音楽が世界を七色に変えて、目の前に広がる大海原と溶け合っています。あまりにも世界は美しく、なんだかいづな街で出逢った人たちの顔が浮かんでいて、いつの間にか涙があふれ出していました。

世界はまだまだ自分の知らないことばっかりだなー。小豆島ではどんな人と出逢えるかなー。たのしみだなー。いつか全国のみなさんと出逢えることを願いながら、今日はこの島で遊んでこーよーと思います。ではわ。いつてきまーす。

## 「いわきのこと」第5回

## 端田新菜「俳優」

これを書いている今日は2013年3月11日。今、午後2時すぎです。正直なところ、2年前のあの日がつくく遠く感じます。その一方で、3年前や7年前くらいのことをとても最近のことのように感じることもありました。でもそれはきっと、歳のせい。震災からの日々が淡いピンク色のレイヤーがかかっているみたいに、わたしの記憶を以前と以後に分けてくれるけれど、そんな記憶の中の自分は、なんとも所感ない感じがします。レイヤーの淡いピンクはたぶん、一昨年の4月にいし いみちこさんが「桜の花がティッシュペーパーみたいに見える」って言ったからついた色だと思います。

2011年の6月にままごとの「わが星」でいわきに行つて、そこで80人ものいわきの高校生と一緒に演劇で遊びました。そのうちの30人くらいとは今でも交流があり、彼らの日々のつぶやきをツイッターで眺めたり、もらった手紙を読み返したりしています。

たまに会いに行ったりもします。会いに行けるのも、でも彼らが演劇を続けてくれているからだなあ。卒業式や公開研究会も、行こうと思えば行けたけれど、行こうとしなかった。わたしと彼らは演劇でつながっています。演劇ってなんだろう。

震災で被災した地域は広くありますが、わたしはまだ、そのほとんどを何も知らないままです。漠然といわきのことだけを思いながら2年を過ごしました。福島県のことほとんど知りません。

今、午後2時44分。NHKでの追悼式中継を眺めながら、そして、彼らがぼつりぼつりつぶやいたりしやいだり想いをあふれさせたりしている言葉たちが混じるツイッターの画面を眺めながら、これを書いています。午後2時48分。黙祷が終わりました。生まれてきてくれてありがとう。うちにきてくれてありがとう、と息子に言つて、それからまた、みんなの顔を思い浮かべました。あれ? 思い浮かべた彼らの顔には、淡いピンクのレイヤーはかかってない。なんだかもつと、むしろ黄緑。あはは、なんだ。 (たぶん続く)

NEW

「縁談のテーブル」  
第1回

## 大石将弘「俳優」

大石が人生の指針を得るために、いま話を聞きたい人に会いに行く企画。第1回は、劇団に所属している同世代の役者さん二人と、僕たちが抱える二つの問題について話してきました。

## 【前編】

## 「主宰に乗っかってるだけ問題」

坂口 前に「主宰がすごいだけ」みたいな話をしたけど。

大石 「乗っかってるだけ」問題。

坂口 それはすごいありますよ。「岩井(秀人)さんすごい」と思つてハイバイ入ったけど、岩井さん岩井さんばかりで悔しいって思うようになって。でも最近、岩井さんはやっぱすごいよって思うようになって。楽になってきましたね、劇団にいる時。

菊池 いい話だね。

大石 ハイバイも、あまり劇団員公演がないですよ。

坂口 あつても呼ばれたり呼ばれなかったり。だから個で頑張る。劇団にいてもいいなくても個で頑張る。一緒に思うんで。

大石 劇団員を毎回全員出すみたいな劇団もあるじゃないですか。でもままごともそうじゃない。劇団員だから出られるわけじゃない。僕はそれいいなと思つて。

坂口 僕も縛られてないっていうか楽ですけどね。

大石 ナイロンの舞台はオーディションがあるの?

菊池 KERA(ケラリーノ・サンドロヴィッチ)さんが決めるよ。でも稽古で2、3回やってダメだったらもうほかの人になっちゃうことも。その一瞬のチャンスをはかせる力がまたまた自分には足りなくて。最近、劇団外の現場に出て、外からKERAさんに「明明いいますよ

<お相手> 菊池明明(ナイロン100℃)と  
坂口辰平(ハイバイ)



ね」って言ってもらえるように、そういうアビールの仕方もあるなって、それは意識してる。

大石 ああ、なるほど。

坂口 いっしょ(大石)さんは、(世間的に)柴さんの名前ばかり出て、苦しいみたいなのはあったりするの。

大石 苦しいっていうのは別になくて。柴さんは、今東京でやることよりも、どこかに拠点を構えてやりたいみたいで。坂口 いっしょさん自身はそれでいいんですか。

大石 それは興味の方向は合ってるというか。一方で劇団の外で俳優の仕事もしたくて。来年は逆に劇団に出る予定がないから、うまくバランスとつてやりたい。個人として自立していくか。楽しい未来を生きるために、やりたいことを選んでいいかな。

坂口 それはほんと必要ですよ。個で頑張るっていう。

(続く)

## NEXT

■柴幸男【演出】・  
大石将弘【出演】・  
宮永琢生【製作統括】

「朝がある一弾き語りTOUR-」

4月23日[火]ー25日[木]

@大阪・FOLK old book store

4月28日[日]・29日[月・祝]

@三重・津あけぼの座スクエア

5月10日[金]ー12日[日]

@神奈川・桜美林プルヌスホール

■柴幸男・大石将弘  
【作・演出・出演】

瀬戸内国際芸術祭2013[春期]

小豆島 島の郷土港プロジェクト

ままごと一港の劇場ー(おさんぼ演劇)

「赤い灯台、赤い初恋」(案内人|柴幸男)

「さかのぼり、まだ見ぬ家へ」

(案内人|大石将弘)

2013年4月5日[金]・21日[日]

@香川・小豆島 坂手港

## 編集後記

端田さん以外の3名は、第6号の原稿を小豆島から送ってくれました。また大石さんの新連載が始まりました。インタビューのセッティングから原稿執筆までライターさながら奮闘ぶりです。次号、第7号もお楽しみに。(熊井)

企画・編集=ままごと  
構成=熊井玲  
デザイン=西山昭彦

## ままごと News

ここでは、最近起こったままごとに関するさまざまなニュースをご紹介します。

## 期間限定ブログスタート

瀬戸内国際芸術祭に参加するため、小豆島にたびたび滞在する予定のままごと。その生活や創作の様子をお伝えするべく、柴が4月21日までの期間限定ブログ「港の記憶」をスタートさせました。(http://mama-goto.tumblr.com) 美しい海や島で出会った人たちの写真もたっぷり。ぜひご覧ください。



## 『あゆみ』が渡辺源四郎商店に登場

オトナの劇団の立場から高校演劇にアプローチする試みとして、畑澤聖悟率いる渡辺源四郎商店が『オトナの高校演劇祭』を開催。同企画の中の一つとして、柴作品『あゆみ』が畑澤の潤色、うさぎ庵の工藤千夏による上演台本・演出により上演されます。4月20日から28日まで青森のアトリエ・グリーンパークにて、5月3日から6日までザ・スズナリにて。



## 『わが星』を天野天街が演出

熊本に拠点を置く、夕田東亜主宰の演劇ユニット「雨傘屋」。その第4回公演として『わが星』が上演されます。演出を手掛けるのは、名古屋を拠点に活動する少年王者館の天野天街。公演に向けて、柴は「僕の夢のひとつに、自分の戯曲を天野さんに演出してもらったことがありました」と喜びのコメントを寄せています。5月31日(金)から6月4日(火)まで、熊本市のギャラリー ADOにて。

## 柴が「はえぎわ」に出演!

昨年、『○○○アル風景』で岸田國士戯曲賞を受賞し、近年ますます活躍に注目が集まる劇作・演出家、俳優のノゾエ征爾。彼が主宰する劇団「はえぎわ」の人気作『ガラバコスパコス』再演に、柴が俳優として出演することが決まりました。上演は6月7日(金)から16日(日)まで、三鷹市芸術文化センター 星のホールにて。



『ガラバコスパコス』初演より 撮影=梅澤美幸